

技術院後援 電波兵器の創意工夫懸賞募集

宮中新春御恒例の講書始の御儀は1月18日午前10時から厳粛に執り行わせられた。この日、光栄ある進講者のうち洋書を御進講申し上げる技術院総裁・八木秀次博士は今次戦争に現われた新兵器の一つを取上げて「電波兵器の発達」と題して、超短波が特に電波兵器に適する理由、永続電波方式と衝撃電波方式との特徴、電波兵器が戦略上の要求によって多くの種類を生じて発達したこと、及びその各種兵器の設計・用途などに就いて御説明し、次に電波兵器に関連する色々の問題に関して申し述べ、今後の研究問題に就いても所見を言上したと承わる。なお終りに、我国の超短波学術が世界各国に先んじて発達したこと、現在軍官民が電波兵器の生産に協力しておることを30分間に亘って御講述申し上げたところ両陛下には御熱心に、聴召されたと漏れ承わるが、斯かる方面にも、大御心を垂れさせ給うことを拝承して誠に感激に堪えない。我々は大いに協力して、我が電波兵器を世界に冠絶するものたらしめなければならないことを痛感する次第である。

この際、読者各位は大いに奮起して電波兵器の創意工夫を急速に国家のお役に供されるように努力されたい。技術院後援・電波兵器の創意工夫懸賞募集は果然各方面の注目を惹き、その後本誌編集部へ続々と応募せられて来ることは主催者としては勿論のこと、邦家のためにも誠に欣快に堪えない。これら応募の創意工夫は時を移さず、直ちに審査機関へ廻附し目下厳密なる審査を受けており、入選せるものは決定次第、誌上にて順次発表する手筈となっている。

次に応募の創意工夫中、入選に到らず且つ誌上発表を当局より許可せられたるものは、適当なる権威に委嘱してその案の批評なり、或は誤謬箇所を誌上に於て指摘して一般の参考に供したいと考えている。

度々言うように電波兵器は航空機とともに現戦局を左右するものである。而して、これは既に完成の域に達しているというものではない。まだまだ、研究改良の余地を多分に残している。読者のうちには、これが研究、生産、運用の各面に従事している方が少ない。否、現在に於ては殆ど全部が全部そうであると思う。各位の日頃の経験なり苦心は躊躇するところなく本懸賞募集へ応募し、国家へ献納するように計られたい。なお、案の秘密保持に関して危惧される向きもあろうかと思われるが、その点に就いては万全の処置をとるように当局との間に了解があるから、御安心の上、奮って応募を切望する。

本懸賞募集の審査員諸氏は次の如し。

陸 軍 多摩陸軍技術研究所

陸軍中佐・齋藤 有氏、陸軍技術大尉・高村永喜氏

海 軍 海軍電波本部

海軍中佐・池田曆蔵氏、海軍技師・西原貢氏

技術院 創意課長・広瀬松夫氏、参技官・原田 久氏

電波兵器の創意工夫懸賞応募規定

1. 創意工夫は電波兵器及びその新兵器に関するものとし詳細を原稿用紙に横書して(可及的26字詰)、附属図面とともに書留郵便にて本誌編輯局内電波兵器研究係宛に送ること。
2. 読者から応募の創意工夫は急速且つ円滑に関係当局の審査並びに検閲を受け、入選せるものは誌上に於て発表(毎月1回)するものとす。
3. 特に優秀なる創意工夫にして誌上発表を憚るものは詳細を発表せざることもあるものとす。但し、その場合に於ても4, 5, 6項は適用する。
4. 入選せるものはその創意工夫の優先を証するため、その到着並びに入選順により「無線と実験登録番号」を附し登録台帳に記録し、登録証を贈る以外に賞金及び掲載誌を呈上する。
5. 入選せる創意工夫に就いての一切の権利は本誌の所有に帰し、本誌より国家に献納するものとす。
6. 賞金は一等300円1名、二等200円1名、三等100円1名を本誌より呈上する。入賞せる創意工夫が多数の場合は授賞者数を臨時増員する外、特に優秀なるものには特賞1000円以上を呈上することあり。
7. 応募は一人にて同時に数件提出することを得。
8. 応募原稿は一切返還せず。

PDF 化にあたって

本 PDF は、

『無線と実験』1945年1月号

を元に作成したものである。

PDF 化にあたって、旧漢字は新漢字に、仮名遣いは新仮名遣いに変更した。漢字の一部には振り仮名をつけた。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

ラジオ温故知新(<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>)

に、

ラジオの回路図を

ラジオ回路図博物館 (<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>)

に収録してある。参考にしてほしい。